

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会 第7回議事録

日 時 令和2年7月15日（水曜日）午後6時30分～午後8時35分
場 所 武蔵野市役所 西棟111会議室
出席者 玉野委員長、深田副委員長、佐藤委員、青木委員、寺島委員、小島委員（名簿順、敬称略）
欠席者 なし
傍聴者 なし

<次第>

- 1 開会あいさつ
- 2 議題
 - (1) 今後の議論の進め方
 - (2) コミュニティづくりについてのまとめ（8協議会）
- 3 その他
- 4 閉会

<配布資料>

- 資料1 開催経過及び今後の予定
資料2 コミュニティセンターの再開までの経過
資料3 コミュニティ協議会との意見交換会等のまとめ 個票（案）
（中央～桜堤：8協議会分）
資料4 追加ヒアリング項目

<議事録>

1 開会あいさつ

【委員長】 新型コロナウイルスの関係でしばらく中断していましたが、この委員会の全体スケジュールも延伸されたようです。それでは、第7回コミュニティ評価委員会を始めたいと思います。よろしくお願いします。

【市民活動推進課長】 4月より市民活動推進課長を拝命しました。3月まで企画調整課で「自治基本条例」の制定の担当をしていました。条例案が議会で承認され4月より施行されていますが、その中にコミュニティのことも規定しています。当評価委員会は議論の途中からになりますが、早く追いつき一緒に考えていきたいと思います。

【事務局】 3月まで企画調整課で総合計画の担当をしていました。以前もコミュニティ関係の業務に携わっていた時期があり、再びの担当となります。よろしくお願いします。

それでは、資料の1番から4番までを確認します。資料1は、「コミュニティ評価委員会の開催経過及び今後の予定」として、今後のスケジュールを記載しています。

資料2は、コミュニティセンターの再開までの経過です。

資料3は、中央コミュニティセンターから桜堤まで8つのコミセンの資料をまとめたものです。

最後の資料4は、追加のヒアリング項目です。

そのほか、委員限りの資料として、本日のタイムテーブル、また、2月の第6回委員会でもいただいたコメントを総括した素案があります。後日、電子メールで確認用のデータを送ります。そのほか、コミセンの位置関係などの確認のために地図もお配りしています。

資料は以上です。

2 議題

(1) 今後の議論の進め方

【事務局】 本日の議題内容と議事運営についてご案内します。

本日の議題は、次第にあるとおり2点です。1点目が、「今後の議論の進め方」ということで、今後の評価委員会の全体スケジュールと議題内容についてご確認いただきます。2点目が「コミュニティづくりについてのまとめ」で、こちらが本題になると思います。前回に引き続き、後半の8協議会のコミュニティづくりについてコメントをいただきます。

そのほか、議事運営についての細かな点が3点あります。

1点目は、今後の感染症の状況により集まって会議を開くことが困難な場合、ご自身のパソコンやタブレットを使用してオンラインでの参加が可能な方については、オンラインでも出席とみなすことをご了解いただければと思います。

2点目は、今まで公開した議事録では、「委員長」、「副委員長」、「委員」のように発言者を匿名にしていますが、議論の流れがわかりにくい部分もあるため、AからDまでのアルファベットで、A委員のように、発言の順番に沿って記号を振らせていただければと思います。各回により発言の順序が違いますので、回によって同じ委員がAになるかBになるか違いが生じます。

3点目は、目の前に置かれたiPadに音声文字変換アプリが入っており、実験的に使用しています。音声を拾うため、ご発言の際にはマイクのご使用をお願いします。議事運営につ

いては以上です。

【委員長】 ここまでの会議の趣旨・進行について、疑問な点などありましたらご質問いただけますでしょうか。(特になし)

それでは、議題(1)の今後の議論の進め方について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 まずは、資料2について先にご案内します。コミュニティセンターの再開までの経過ですが、3月2日から7月5日までは、全てのコミセンが閉館しておりました。6月に入り、開館に向けて全てのコミュニティ協議会が集まってコミュニティ研究連絡会などで協議し、ようやく7月6日から条件付きで再開という状況になっています。当面の利用条件としては、やや厳しい条件を設けており、例えば、会議や打ち合わせなど着席で行える活動のみの利用を認めるなど、こうしたことを共通利用条件として再開しました。これを8月15日まで1か月程度の「ステップ1」と定めており、8月16日以降の利用条件については、これから検討を進めます。

それでは資料1をご覧ください。「コミュニティ評価委員会の開催経過及び今後の予定」です。評価委員会については、昨年から6回の会議、3日間の意見交換会、1回の視察を開催しました。今後の予定については、本日から10月までの間に、4回の会議と1回の視察を予定しています。

それぞれの具体的な議題内容ですが、本日は前回に続き、8つの協議会のコミュニティづくりの取り組みのコメントをご検討いただきたいと思います。

資料中のヒアリングとは、事務局で各コミセンを訪問して追加ヒアリングを予定しているものです。評価報告書に入れ込む「適正な運営、施設整備、設備の管理」といった実務的な内容になりますので、これらは事務局のほうで順番にヒアリングを行います。

次の第8回(8月19日)については、3つの議題を想定しています。

1点目は評価委員会による総括コメントと追加ヒアリングの結果の確認で、第6回・第7回の総括コメントの確認と、事務局で行う追加ヒアリングの結果の説明と確認を予定しています。

2点目はコロナ禍のコミュニティ活動への影響です。コミセンを閉館していた間に各コミセンでどういった取り組みをしてきたか、また今後どういう取り組みを考えているかについて、コミュニティ研究連絡会でこれから議論を進めたいと考えています。現在、各協議会にアンケートをとっていますので、とりまとめたものを紹介して、評価の参考にさせていただければと考えています。

3点目が「ハード面の特徴・課題の確認と対応の検討」で、第9回まで続きますが、目的を二つ考えています。一つ目は、施設のハード面の特徴や課題が、ソフト面のコミュニティづくりの活動にどう影響しているかの確認です。昨年の意見交換会の中で、ハード面についての意見をうかがったり確認したりしましたが、その振り返りとともに、各コミセンの歴史的な経緯や、周辺環境の特徴なども、改めてご紹介したいと思っています。二つ目の目的は、武蔵野市は公共施設を60年以上使い続けたいとの方針を持っており、3年前に策定した公共施設等総合管理計画に基づいて、種類ごとの公共施設の計画を現在つくっています。コミセンについても、メンテナンスや建て替えに向けた準備の計画をつくる予定です。コミセンを60年使い続けるために何が必要か、将来の建て替えに向けてどんな課題があるかを整理する前段として、当評価委員会でのご意見も参考にさせていただければと考えています。

第8回の議論を踏まえて30日に視察を予定しています。細かい時間は調整中につき改めてご案内しますが、3月に予定し中止となった視察の振替として、まだ視察をしていないコミセンを全て回りたいと考えています。

第9回は視察の振り返りも含め、第8回のハード面についての議論の続きを考えています。また、地域フォーラムやコミュニティ未来塾についても総括した報告書の素案をお示しし、ご検討いただきたいと考えています。

最後は第10回（10月28日）です。第9回の後の1か月間で、皆様からご意見やコメントをいただき、委員長と相談しつつ、最終案として取りまとめ、最終回でご確認いただきたいと考えています。この第9回から第10回の期間は慌ただしくなる可能性があります。資料の説明は以上です。

【委員長】 視察が途中で中止になりましたが、それについては振替として、ハード面の検討とともに後ほど行うこととなります。以上のような経緯で進めることについて、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

【A委員】 8月30日の視察については、1日だけで全て回る予定でしょうか。2日にわけてもよいのではないのでしょうか。

【事務局】 今のところ、1日で分館を含む15施設を回る予定です。1施設あたり30～40分となりますが、ポイントを絞った資料を事前にお渡しし、それを見ながら視察できればと思います。

（2）コミュニティづくりについてのまとめ（8協議会）

⑨中央コミュニティ協議会（前回①～⑧協議会を終了）

【事務局】 資料の1～2ページは、これまで多々ご覧になったことがあるものと思います。3ページでは、主な事業を表に整理しています。本日は4～5ページをご覧ください。6ページの④⑤は、現在事務局にてヒアリングしているものを埋め込む形で、最後の「総括及び今後期待すること」は、本日の皆様のご意見を踏まえて事務局にて整理し、またご確認いただきたいと考えています。

4～5ページをご覧ください。「①運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上」とありますが、閉じ括弧の位置を「（住民）の満足度の向上」に修正します。一つ目の項目が「利用者への配慮と適切な対応」です。これまでは部屋の申し込みで早朝から並ぶ人が多いという課題があり、中町集会所で予約受付時間を午後からに変更したものの、今年に入り、利用者の要望も踏まえて元の時間に戻しているとのこと。項目「新しい利用者・利用団体の増加」では、「武蔵野桜まつり」に毎年協力し参加しており、協議会のことを知ってもらうきっかけづくりをしているとのこと。項目「施設の利用方法の工夫」では、エレベーターの設置要望が出ており、これがネックになっているというお話でした。項目「情報の提供」については、コミセンだよりを毎年4回発行しており、小学校ではチラシを配ってもらっているということです。

次は「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」では、1階のロビーをギャラリーとして団体に貸し出したり、館内の大掃除のときに団体に呼びかけをして大勢で清掃したりしているとのこと。項目「地域とコ

ミセンのつながりづくり」によると、3大イベントである「夏まつり」「文化祭」「もちつき」において、目の前の第一中学校の生徒の協力を得ているとのこと。また、「夏まつり」「文化祭」については地域団体の出店を頼んでいるとのこと。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」では、運営委員が不足しているものの、新しいマンションができていることから、マンション住民に事業参加してもらい、コミセンを理解してもらえればとのこと。工夫点としては、小中学生向けの事業の充実を図っているとのこと。項目「持続可能な事業の実施」によると、中央コミセンと中町集会所があるため、改修工事の折には中町集会所で事業開催したとのこと。工夫点としては、二つの施設がある利点を活かした事業を検討していきたいとのこと。最後の項目「活発な協議会運営」によると、毎月開催する運営委委員会を中心に、皆さんが真剣に携わっているとのこと。

【委員長】 思いついたところについて、強調すべき点などあれば、ご意見をいただきたいと思えます。中央コミセンは交通の便が良く、中町集会所は駅に近いため、外部も含め利用団体が多かった印象があります。利用団体に呼びかけて掃除をしてもらっている点は、一つの工夫として指摘できるのではないのでしょうか。

【副委員長】 利用者への配慮と適切な対応について、「元に戻した」という話を載せる必要はあるのでしょうか。元に戻っているのであれば、記載する必要があるのか疑問に思えます。

【事務局】 今のご指摘は中央コミュニティ協議会にも確認します。仮にこの記載を載せない場合には、中央コミセンは市外の方も利用できるという利用条件の工夫がありますので、協議会に確認したうえで、そうした点を追記することも考えられると思えます。

【副委員長】 ヒアリングした意見交換会のまとめにもありますが、大型館であるため市内外からの利用者があり、利用団体がかなり多彩である点を載せたほうがよいと思えます。また、ロビーを色々と活用されている点に特色があると思えます。ただし、「地域におけるネットワーク機能」欄において、「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」と「地域とコミセンのつながりづくり」の両項目でロビーの使われ方について記載されており、重複している印象がありますので、整理が必要だと思えます。

【委員長】 元に戻した事情は何かあるのでしょうか。

【事務局】 確認してご報告したいと思えます。

【B委員】 中央コミセンにホームページがあるのならば、情報の提供の欄に、それも付け加えるとよいと思えます。「新しい利用者・利用団体の増加」欄にも「武蔵野桜まつり」に毎年協力されていると記載がありますが、せっかくなのでここで協力委員や運営委員を募集するとよいと思えます。どのコミセンにも共通で「守り」の姿勢が見られるため、何か面白く工夫した点があるとよいと思えます。

【C委員】 ロビーについては、ミニギャラリーなど、使い方が多目的になっていると思えました。また、改修により1階トイレではセンサーで蛇口から水が出るようになり、非常に良くなっています。感染症対策としても効果的で、今後のコミュニティセンター改修の指針になるのではと思えます。改修によってどのような目的でどこをどう変えたか、それに対する利用者の反応はどうか、という視点も大事だと感じます。

【D委員】 中央コミセンは、特にお祭りにおいて、運営団体に関わってもらっていること

が一つの大きな特徴だと協議会の方もおっしゃっていました。地域におけるネットワーク機能としては、館内清掃によって互いの理解度が高まっている点を指摘されていました。また、協議会が実現したいこととして、ストレッチ教室の改善、中町集会所との連携、エレベーターの設置を挙げていました。ストレッチ教室については、利用者が多いものの中高年の人が多いとの課題を挙げられていましたし、第一中学校生徒の利用についても、利用は多いが部屋を貸しているだけという指摘も挙げられていました。これらは、今後の課題として扱うのでしょうか。

【委員長】 活動そのものに関わっていただくに至っていないという課題があり、事業を任せる工夫が求められることを総括コメントに含めると、今後の方向性が示せてよいのではないのでしょうか。

【C委員】 第一中学校との関わりについて、かつて「一中フェスタ」と呼称されていたものの現状を確認できるとよいと思います。また、「武蔵野桜まつり」での尽力は特筆すべきだと思います。ほかのコミセンにも知ってもらいたいと思います。

【副委員長】 第一中学校との関わりは、一中フェスティバルで部屋を貸すだけでなく、文化祭で生徒がお手伝いしたり、夏まつりだかはっきりしないが、校長先生が模擬店で頑張っておられたりと、ほかのコミセンで見られない関係性が素晴らしいです。

【委員長】 いくつか統括的なコメントもありました。記録と修正をお願いします。

⑩西久保コミュニティ協議会

【事務局】 3ページをご覧ください。「①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上」の項目「利用者への配慮と適切な対応」で、工夫点としては、利用者の要望を反映し、休館日を月1日だけに減らしており、また、電話による部屋の仮予約も可能としているとのことです。項目「新しい利用者・利用団体の増加」では、ナイトハイクなど子ども向け事業に力をいれており、子どもや若者の利用が増えているとのことです。項目「施設の使用方法の工夫」では、大声や大きな音が出る活動を考慮し、その内容や時間帯に合った部屋を案内しているとのことです。項目「情報の提供」では、定期的にコミュニティだよりで広報をしているとのことです。

次は「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」では、コミュニティだよりに団体の紹介を掲載しているとのことです。項目「地域とコミセンのつながりづくり」の工夫点として、地域の各団体の代表者が集まって年間スケジュールを共有・調整する話し合いの場を設けているとのことです。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」では、マンパワーが手薄になっているものの、他の団体との共催事業を増やすなどし、幅広い主体を巻き込んで事業を実現しているとのことです。項目「持続可能な事業の実施」では、高齢化が進む中でナイトハイク事業が体力的に厳しく、亜細亜大学の学生にボランティアとして参加してもらっているとのことです。最後の項目「活発な協議会運営」では、協議会会則の見直しを検討しており、他の協議会にアンケートを実施したとのことです。

【委員長】 西久保コミセンはナイトハイクが非常に特徴的な活動です。それが体力的に厳しくなってきた、大学の学生さんをお願いしたり、関連団体に声をかけ協力依頼したり、いろいろ工夫されている点が一番印象的だと感じます。いかがでしょうか。

【副委員長】 休館日を月1日にしているとのことでした。非常に利用者の便宜を図っているように思います。電話予約ができる点も特色だと思います。また、「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」については、ヒアリングの際にわかったこととして、子ども科学教室や天体観測会などで、コミセンの利用団体である「きらめきライフ多摩」が事業実施に協力してくれていることがよい事例として挙げられると思います。

【B委員】 多摩湖往復ナイトハイクは第五中学校の生徒を中心にずっと続けてこられたもので、ぜひ続けていただきたいと思います。体力的に難しくなりつつあるようですが、必要であれば研連などで事業を紹介し呼びかけることで、他のコミセンとの協力体制をつくれるとよいと思います。

【C委員】 ナイトハイクは様々な団体との共催ですので、コミセン間ではなく、地域の団体との実施事業としてPRしていただくとよいと思います。また、コミュニティだよりに団体の紹介を掲載しているとありましたが、最近の令和2年度1号（7月号）には、紹介等は載っていませんでした。また、③の項目「活発な協議会運営」に協議会会則の見直しを検討しているとあるのですが、現行の会則で運営上どのような不都合があつて変更するのか、具体的な記載があるとよいと思います。

【D委員】 親子ひろばの延長で最近増えてきた「西久保コミセンひろばピノキオ」において、利用者が互いにつながっているという話があつたと思いますが、記載されていません。今まで実施してきたところで人員配置などが難しくなりつつも、新しいこともやっているとおっしゃっていたので、記載していただきたいです。

【A委員】 協議会会則の見直しの検討については、具体的にどの点を検討しているのかわかるとよいので、この辺りのヒアリングができるとよいと思います。また、電話予約の可否や、コミセンだよりの発刊部数・回数など、コミセン間の比較ができる表があるとよいと思います。

【事務局】 会則の変更については、役員の選任方法について検討しているそうです。現状では役員に監事が含まれており、役員と監事をわけるかアンケートを実施し検討したものの、改定には至っていないとのことでした。

また、コミセン情報の一覧表については、整理し報告したいと思います。

【委員長】 報告書に一覧表の掲載があると参考になってよいと思います。どの館も職員が運営していると思っている市民は、館による違いを不満に思うことがあり、気の毒ですので、武蔵野市として仕組みをPRする必要があると思います。電話予約についても、それなりの関係性があるからできることです。個別事情に配慮しながら運営している特徴等を、改めて確認する必要があると思います。同時に、あちらができるならこちらでもできそうだななど、検討できるものになるとよいと思います。

【C委員】 運営委員の中から役員を選任し、監事は別のポジションとの認識を持つコミセンもあるのかも知れません。監事も運営委員の一員という考え方もあると思います。各コミセンの役員選出方法や考え方についても記載があるとよいと思います。

⑪緑町コミュニティ協議会

【事務局】 3ページ目の「①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上」の項目「利用者への配慮と適切な対応」をご覧ください。緑町コミセンは、かつて午前9時半から夜9時

半までの開館時間だったのですが、朝から並ぶ方がいらしたため、工夫点として開館時間を30分前倒し、夜も9時までに変更したとのことです。項目「新しい利用者・利用団体の増加」では、「みんなの広場」事業を立ち上げ、例えばフラダンスや音楽会、あるいはテーマを決めずに、気軽にコミセンを訪れるきっかけをつくっているとのことです。項目「施設の利用方法の工夫」では、エレベーター設置によって車椅子の方でも2階に行けるようになったこと、工夫点としては、部屋の段差解消のためにスロープを用意しているとのことです。項目「情報の提供」では、コミセンだよりの負担が課題になっているものの、掲載する情報量を減らしたりページ建てを減らしたりと柔軟に対応しているとのことです。

続いて「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」では、「地域ふれあいまつり」というコミセンの文化祭で、双方に繋がる機会をつくっているとのことです。項目「地域とコミセンのつながりづくり」の工夫点としては、地域ふれあいまつりを通じた繋がり、第四中学校の行事への参加が挙げられています。なお、特筆すべき成果の記載「緑懇談会」は、「緑懇話会」の誤りのため訂正します。緑懇話会を続ける中で、バスルートの改善につながったという成果が挙げられています。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」では、現状ではイベント実施を大学生ボランティアに頼っており、工夫点としては、まずは協力委員になっていただき、その後に運営委員につながればとの考えが示されています。また、若い参加者にも声かけをしているということです。項目「持続可能な事業の実施」として、コミセンに来られない方にも事業を楽しんでもらうために出前講座をしています。地域懇談会が出た意見を反映したもので、都営住宅の集会所で輪投げ大会や演奏会を試みているとのことです。最後の項目「活発な協議会運営」では、運営委員会とセットで毎月窓口会議を開催しているとのことです。

説明は以上です。

【委員長】 ご意見等いかがでしょうか。

【副委員長】 項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」については、バス会社に停留所の位置を変えてもらったとのことで、地域フォーラムのお手本のような活動だと感じました。地域団体とのつながりがうまくできている点で評価できると思います。緑町はクリーンセンターの存在が印象深いのですが、地域の取り組みが大きな効果としてあるのではないかと思います。

【D委員】 地域ふれあいまつりは、コミセン東側のテニスコート3面を生涯学習振興事業団に借りて実施したとのことです。このことは、クリーンセンター以外にも地域ネットワークがある点を示せるよい事例だと思いますので追記していただきたいです。

【B委員】 同じ意見で、2～3年前から隣のテニスコートを借りられるようになったことで、イベントの幅がかなり広がり、よいことだと思います。人手不足のようで、隣のけやきコミセンの運営委員が数名手伝っていますが、それはそれでよいと思っていますので、ぜひ続けていただきたいです。

【C委員】 ふれあいまつりに行ったところ、時間の問題もあってか、コミセンの参加者が少ない印象がありました。ところで、バス停は、どこからどこに移動したのでしょうか。

【事務局】 10数年前に緑町1丁目に新しいスーパーができる際、渋滞解消のために付近のバス停を移動する必要が生じました。今までよりバス停が遠くなる住民の意見を踏まえ、

緑懇話会が市やバス会社と協議し、緑町2丁目のURと都営住宅間に新たなバスルートが実現したとのことです。

【C委員】具体的な記載があると、地域の力でこれだけのことができたのだと成果として伝わると思います。ふれあいまつりについては、老人会の展示もあったはずですが。項目「持続可能な事業の実施」には、周辺の集会所で輪投げ大会を実施とありますが、29ある老人クラブの中で、この地域の老人クラブはとても優秀な成績をあげられており、以前はピンポンもされていたと思います。コミュニティセンター限定の話ではありませんが、スポーツ面が活発である点を地域特性として記載してもらえるとよいと思います。

【委員長】出前講座は大きな特色ですので、もう少し背景や地域の支えも含めて補足いただければと思います。

⑫八幡町コミュニティ協議会

【事務局】3ページ目をご覧ください。最初は「①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上」の項目「利用者への配慮と適切な対応」です。工夫点として、部屋が空いている場合には、1名であっても当日申込により2時間まで利用できるようにしており、また、ホームページで予約状況の確認もできるとのことです。なお、けやきコミセンと境南コミセンも、同様にホームページで予約状況の情報を掲載しています。項目「新しい利用者・利用団体の増加」では、子どもを対象にした事業を増やしており、工夫点として、子ども向けの料理教室など親子で楽しめる事業を展開しているとのことです。項目「施設の利用方法の工夫」では、工夫点として、学ぼうルームが満席のときに空いている部屋を学習スペースとして開放しており、また、1階ロビーの利用が多い場合には、机や椅子を増やすなど柔軟に対応しているとのことです。項目「情報の提供」では、工夫点として、地域の千川小学校でのチラシ配布、PTAや青少年問題協議会と連携した情報発信を挙げています。成果として、マチコミ（連絡がスムーズにできるアプリ）を使い、情報を直接届けているとのことです。

続いて、「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」では、新春のつどい、はちコミまつりを通じて団体同士の相互理解を高めており、また、各団体のニーズを拾いながら共催事業につなげるように工夫しているとのことです。項目「地域とコミセンのつながりづくり」では、工夫点として、はちコミまつりを小学校PTAや子ども会、青少年問題協議会などと共催で実施するなど、できるだけ地域の団体との共催を心がけているとのことです。地域団体の会議への出席だけでなく、積極的に交流を持ち、相互協力できる体制がとれる工夫をしているとのことです。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」では、現状では、仕事や子育てをしながらも、協議会運営に関われる体制を整えており、成果としては、新しい運営委員が入ってきているとのことです。項目「持続可能な事業の実施」では、「歩こう会」事業が20年近く続いており、企画、テーマ、行き先などを工夫しているとのことです。最後の項目「活発な協議会運営」では、多世代の運営委員によるいろいろな考え方があるため、話しあう機会を積極的に設けているとのことです。説明は以上です。

【委員長】運営委員の新規加入や、これまでなかったつながりが生まれているといった点が目立つのですが、まちの状況の変化などの理由があったと思います。

【D委員】建て替えも原因の一つかと思います。

【副委員長】 ③の項目「持続可能な事業の実施」の【現状】の表記に「『歩こう会』といったコミセン外での事業を多く実施している」とあるのですが、「歩こう会」以外にもコミセン外に行くような事業があるのでしょうか。「歩こう会」のみだけでなく、よく外に行くということなののでしょうか。調べて誤解のない表記にしていきたいです。

【A委員】 マチコミは学校で登録し情報をやり取りできるツールらしいのですが、武蔵野市の小学校でよく利用されているのでしょうか。コミセンも加入し、学校と連携できていならば、非常に興味深いです。アプリを介することで個人情報の心配がないからでしょうか。直接配信できるのはかなりの強みだと思います。

【事務局】 現在の協議会の委員長が PTA 役員 OB であるため、小学校 PTA とのつながりがあることと、委員長に就任する前からマチコミのアプリをご存じだったことが強みだと思います。他のところでもできなくはないと思います。

【C委員】 本宿青少年問題協議会でも数年前からマチコミを利用しています。コミセンの委員が青少協に所属していることもあり、マチコミの情報はよく入ってきます。例えば、コロナ感染下の学校消毒・清掃の問題があります。6月1日開校当初は用務の方や担任の先生だけで行っていたのですが、専科の教室まで手が回らなくなり PTA も参加しています。地域への声かけを申し出たところ、アプリを通じて青少協にも情報が届くようになり、30分程度の短時間作業ですので、コミセンの運営委員にもお知らせと清掃方法のチラシを配布し協力依頼をしています。ただ、学校の清掃に外部の方が関わることへの懸念もあり、一様に語れないことも承知しています。①の項目「利用者への配慮と適切な対応」に当日利用可能な記載がありますが、どのコミセンでも比較的当たり前ですので、強調しすぎるとよくないと思います。千川小学校を支える PTA や、青少協、千川おやじーズとコミセンの関わりが深くなっているのは、協議会会長が PTA 役員 OB であることが影響しており、この時代にあった新しい感覚で運営されている気がします。

【B委員】 施設の利用方法の工夫について、非常に柔軟な対応をされていると思いました。また新春のつどいでは、地域団体全てをパネルで紹介するなど、地域とのつながりを感じてよいと思いました。

【副委員長】 マチコミについて、今風のものを使って情報発信していくことは大切でユニークだと感じました。西部コミセンでも SNS で情報発信しています。ホームページだけでなく、積極的な情報発信の取り組みが大切です。

【D委員】 千川小学校についての記載が多いのですが、武蔵野北高校との防災の関係や立地関係についても記載してほしいと思います。利用者懇談会について、コミセンでは、話し合うことを大事にしており、よいことを発言してもらうルールがあるとおっしゃっていた気がします。可能であれば追記してほしいです。

【C委員】 武蔵野北高校の外部評価委員会にコミュニティセンターが参加されていたように思います。都立高校との関係は構築できていると思います。

【事務局】 八幡町コミセンでも、Twitter/Instagram の公式アカウントを最近開設したとのこと。

【委員長】 ソーシャルメディアの推進では実際に使えることが大切であるため、行政主導による一律導入よりも、内部の運営委員に得意な方がいらっしやるタイミングで無理なく進め、研連等で相互に刺激しあうのがよいと思います。施設的な問題が生じた場合に行政が

手当てするという考え方がよい気がします。現在、成果が出ていることは特筆すべきことですので、総括的コメントをお願いします。

⑬関前コミュニティ協議会

【事務局】 4ページ目をご覧ください。「①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上」の項目「利用者への配慮と適切な対応」では、ガーデニングチームを立ち上げ、利用者の憩いの場となるようにしているとのこと。項目「新しい利用者・利用団体の増加」では、現状として、ミュージックフェスティバルを取り上げており、工夫点としては、以前実施していたカラオケ大会よりも幅広い年齢層の方が参加できる催しにしたとのこと。成果としては参加者の輪が少しずつ広がってきているとのこと。項目「施設の使用方法の工夫」の工夫点としては、調理室がないために火を使用しないのでできるメニューを設定し、「男子の料理教室」を実施しているとのこと。項目「情報の提供」では、ホームページをリニューアルしているとのこと。

次は「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」によると、コミセンまつりが交流の機会になっているとのこと、多くの団体と協力しながら開催しているとのこと。項目「地域とコミセンのつながりづくり」では「関前八幡まつり」を取り上げています。平成4年から続く地域の行事として、地域団体と連携した花火大会を関前南小学校で行っており、団体間の顔の見える関係性につながっているとのこと。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」の工夫点は、運営委員になる要件を緩和している点で、具体的には、運営委員会やコミセンの行事に年2回以上出席してもらえればよいとのこと。項目「持続可能な事業の実施」によると、小学生の吹奏楽演奏をきっかけにPTAの方たちの協力が得られているとのこと。最後の項目「活発な協議会運営」では、窓口担当者会議を定期的に行っており、対応力の向上や情報共有ができているとのこと。説明は以上です。

【委員長】 いかがでしょうか。

【副委員長】 主な事業が三つしか書かれておらず、他と比べて非常に少ない印象です。よい意味でいえば、様々な団体の力を借りて、「関前八幡まつり」など様々な事業を実施しているのかと思います。ミュージックフェスティバルなど、コミセンが利用者をうまくコーディネートしてユニークな事業を実施している点に少し特色があるように思いました。

【C委員】 主な事業は、コミセンの性質によって二つにわけられるように思います。一つは、大きな地域課題の解決や、地域住民のニーズによって主体的に方向性を決めるコミセンです。もう一つは、吉祥寺などにもありましたが、コミセンまつりや利用者懇談会、子ども親子ひろばなどを他団体との関係の中で連携してつくりあげるコミセンです。他のコミセンがどんなことをしているのか、それぞれアンテナを伸ばして、もう少し知ってもらいたいと思います。

【D委員】 関前コミュニティ協議会から話をうかがったときには、カラオケ大会を発展的に解消してミュージックフェスティバルにするなど、事業をスクラップアンドビルド的にいろいろ考えられている印象を持ちました。また、事業の数が少なく見えますが、地域の福祉の会と協力して七夕まつりを開催しているとの話もあったように思います。

【C委員】 花火大会は8月、七夕まつりは笹竹に短冊と折り紙で飾りをつくるのですが、これも開催時期が違いますが、地域の福祉の会と連携して活動しています。どちらも夏までの事業は中止になっています。

【A委員】 比較的利用率も高く、上手くいっている印象がありましたので、事業の数が少ないことは必ずしも悪いことではないように思います。日常の活動がうまくいっているからこそ、イベントに頼る必要がないとして評価できるのではないのでしょうか。

【B委員】 項目「運営委員・協力員の人材充実」において、運営委員の要件を緩和している点は非常によいと思います。「運営委員会は義務のため欠席不可」、「事業の手伝いを積極的に行うべき」などと運営委員に求めがちですが、むしろ、忙しい方やお子さんのいる方をつなぎとめておくためには、「今は無理でも時間ができた際にしっかり手伝ってください」という柔軟なスタンスのほうが大切だと思います。

【委員長】 関前コミセンでは地域団体をコーディネートする役割が大きく、運営委員自身による企画が前面に出ないという特色があると思います。運営委員が自由にできる部分があると読み取ることもできますので、既存の行事はそのまま維持しながらも、新たに運営委員になった人が独自の工夫でチャレンジできる点を、今後期待できる点として評価してもよいと思います。

【C委員】 運営委員の要件を「運営委員会やコミセン行事に年2回以上出席すること」としているとのことですが、欠席届はどうしているのでしょうか。体調が悪い場合、仕事で都合が悪い場合だけでなく、中にはずっと欠席される場合もありますので、役員の負担増を防止するためにも、運営委員の意思表示の仕組みがあることが重要だと思います。

【委員長】 ほかのコミセンと違う性質を持っているよさも踏まえ、さらなる展開を期待したいということで評価するのがよいかと思います。

⑭西部コミュニティ協議会

【事務局】 3ページ目をご覧ください。最初は「①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上」の項目「利用者への配慮と適切な対応」です。体育室を、これまでよりも少ない人数で予約できるよう検討しているとのことです。項目「新しい利用者・利用団体の増加」によると、地域の子どもの数の増加もあり、子どもの利用が増えているため、地域の子どもたちが利用しやすい環境づくりを課題として認識しているとのことです。また、項目「施設の利用方法の工夫」では、体育室利用時の熱中症予防のため、隣接する部屋を開放して休憩場所としているとのことです。項目「情報の提供」では、SNS（Twitter）、広報紙を活用して情報発信しているとのことです。

次は、「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」では、6月のコミセンまつりや秋の文化祭で顔の見える関係性をつくっているとのことです。工夫点としては、文化祭で出展サークル数が減少していることから、展示発表の場だけでなく、参加・体験型イベントを企画しているとのことです。項目「地域とコミセンのつながりづくり」によると、自主防災組織であり避難所運営組織である桜野地域防災ネットワークとの連携を構築しているとのことです。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」では、運営委員を対象とした研修会を開催しており、講師を招いての学びの場を設けているとい

うことです。項目「持続可能な事業の実施」の工夫点として、中高生のボランティアの協力を得ており、小学生や大学生にも協力を呼びかけているとのこと。最後の項目「活発な協議会運営」では、若い世代の運営委員が増加傾向にあり、工夫点としては、定例会議に出やすいように、午前と夜間の時間帯に交互に開催するようにしているとのこと。説明は以上です。

【委員長】 いかがでしょうか。

【B委員】 項目「地域とコミセンのつながりづくり」について、桜野地域防災ネットワークとの連携以外にも、地域の福祉の会や、青少年問題協議会との関係についても記載があるとよいと思います。

【A委員】 体育室の使い方について、試験運用を行ったとありますが、具体的にどのような結果が出たのかを知りたいです。また、SNS（Twitter）利用について、2018年10月（約1年半前）の開設で現在のフォロワー数98となっており、あまりうまくいっていないようですので、改善を検討したほうがよいと思います。

【事務局】 試験運用結果については、お調べしたいと思います。

【C委員】 コミセンが桜野地域防災ネットワークのメンバーになっているとのことでしたが、避難所運営組織の一員だけでおしまいではよくないと思います。コミセンが、地域支えあいステーションとしてどう取り組むかが重要だと思います。SNS（Twitter）での情報発信については、受け手である市民は多世代であり、利用できない人がいることも考慮すべきだと思います。西部コミセンは、コミセンだよりを出していない時期があったようですが、地域の重要なニュースなどについては、印刷物でじっくり繰り返し読みたいものもありますので、両方あったほうがよいと思います。同様に、予約情報についても、ネットと電話と両方があるとよいと思います。

【委員長】 西部コミセンは、地域の人たちの入れ替わりなどにより、様々な試みをしているものの、まだ方向性が見えず苦勞している過渡期という印象を受けます。

【副委員長】 平成30年度の自己点検評価をみると、いろいろな意見があり、変えていくのに苦勞されている様子がうかがえます。比較的若い方が委員長になられたことで、SNS（Twitter）での情報発信など、新しい発想をもって取り組まれていますので、それをうまく伸ばしていけるとよいと感じました。

⑮境南コミュニティ協議会

【事務局】 3ページ目をご覧ください。最初は「①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上」の項目「利用者への配慮と適切な対応」です。体育室について、混雑している際には2時間を目安にした利用をお願いしているとのこと。項目「新しい利用者・利用団体の増加」の工夫点として、スポーツ関連団体から1名ずつ出してもらい「スポーツ委員会」というものを設けており、イベントとしてスポーツデーを開催しているとのこと。また、項目「施設の利用方法の工夫」では、熱中症予防のため、気温を測り注意喚起を行っているとのこと。項目「情報の提供」では、現状では、ホームページで施設予約状況を公開しているとのこと、工夫点としては、ホームページに地域の写真や周年記念誌、協議会の歴史を掲載しているとのこと。

次は、「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンと

のつながりづくり」では、「モーニングハイク」事業により交流が生まれていることが特徴とのことです。また、市との連携事業「ママのための健康講座」、地域社協との連携事業「くまのこひろば」を多く実施しているとのことです。工夫点として、子どもの成長に応じた事業を実施しているとのことです。項目「地域とコミセンのつながりづくり」では、地域団体から運営委員を選出しているとのことです。工夫点として、境南盆踊り実行委員会（協議会OB・OGが立ち上げた実行委員会）に協議会が入って支えているとのことです。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」では、高齢化が課題ではあるものの、PTAや地域社協の協力が得られているとのことです。項目「持続可能な事業の実施」では、「モーニングハイク」事業ではメインの担当者を毎年変えているとのことです。また、運営委員は「成人活動部」など5つの部に分けており、それぞれに役割・裁量を与えているとのことです。工夫点としては、5つの部の主体的な行動が増え、提案・報告が活発に行われているとのことです。最後の項目「活発な協議会運営」によると、実現していないものの、協議会会則の見直しを進めてきたとのことで、よりよい協議会運営ができるよう工夫を続けているとのことです。説明は以上です。

【委員長】 いかがでしょうか。

【副委員長】 項目「持続可能な事業の実施」にて、運営委員を5つの部に分けているとのことでしたが、2つの部名しか記載がありません。他のコミュニティ協議会の参考にもなるため、すべての名称を記載していただきたい。

【委員長】 関前と似て、地域に定着して事業展開されており、安定感があると思います。5つの部が提案を始めた点に一つの可能性を感じます。運営委員の裁量や関心で新たな取り組みが進展することを期待したいと思います。

【C委員】 小中学校では体育館の周りに温度計が設置されています。武蔵野市には体育館のあるコミセンがいくつかありますが、それぞれ体育館の温度管理をどのようにしているのか知りたいです。また、地域団体から運営委員を選出していることが特徴で、役員がほぼ5年ごとに全て入れ替わっているように記憶しています。この特徴について、コミュニティ協議会自身がどのような考えを持っているのか、ヒアリングでうかがいたかったです。例えば、老人会や協議会OB・OGなどの影響力が強いと思われるのですが、項目「活発な協議会運営」に記載されていた協議会会則の見直しには、それら団体との関係性を見直しも含むのでしょうか。地域団体との相関関係が分かりやすく記載されているとよいと思います。

【事務局】 体育館の温度管理については、何らかの計測器を設置しています。今後は、体育館のある三つのコミセンの暑さ対策として、小中学校と同様の冷房の機械を設置する予定です。

【C委員】 今年度中に設置予定なのでしょうか。

【事務局】 西部と吉祥寺北は今年中です。境南は来年7月まで給排水管等の工事予定で長期休館となるため、来年度の設置になると思われます。

【委員長】 境南コミセンは、武蔵野市の中では特殊だとされがちですが、ほかの自治体の地域ではこちらの形態が普通という点が特徴です。この特徴のまま安定して運営されているため、安定性を活かした創意工夫が期待できますので、その点をうまく評価できるとよいと思います。

⑩桜堤コミュニティ協議会

【事務局】 3ページ目をご覧ください。最初は「①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上」の項目「利用者への配慮と適切な対応」です。主に子ども向けと思われるが、卓球セットやオセロ、トランプ等の貸し出しを行い、気軽に来て楽しめるようにしているとのこと。項目「新しい利用者・利用団体の増加」によると、輪投げ大会・ポッチャ大会など、子どもから高齢者までが一緒に参加できる大会を実施することで、世代間に交流が生まれているとのこと。また、項目「施設の利用方法の工夫」では、現状では大きな部屋がないため、工夫点として、目の前の上水北公園も活用して「夏まつり」や「星の観望会」などを実施しているとのこと。項目「情報の提供」では、会報（コミセンだより）を3か月に1度発行しているとのこと。なお、ホームページも開設されています。

次は、「②地域におけるネットワーク機能」です。項目「利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり」では、利用者懇談会を年1回開催し、団体同士の交流、地域のつながりの創出に取り組んでいるとのこと。工夫点としては、継続的に訪れてもらえるように、「親子ひろば」の参加者に「よみきかせ」への参加も呼びかけているとのこと。項目「地域とコミセンのつながりづくり」では、現状では、地域団体と連携して事業を実施しており、特に、地域の老人クラブとの共催で輪投げ大会などを実施しているとのこと。工夫点としては、桜野小学校とのつながりづくりに取り組んでいるほか、地域団体の代表者と密に連絡を取り、各団体に協力依頼をして団体同士のつながりをつくっているとのこと。

続いて「③持続可能な協議会の運営」です。項目「運営委員・協力員の人材充実」によると、現状では、高齢化が進んでいるため若い世代の参加を得ることが課題となっていますが、昨年度は新しい運営委員が3名入ったとのこと。項目「持続可能な事業の実施」によると、「天体観望会」が講師都合により継続困難になりましたが、工夫点として、新たな講師の紹介を受けて、現在も事業継続できているとのこと。最後の項目「活発な協議会運営」によると、三つのサークルが定期的に活動しているとのこと。説明は以上です。

【委員長】 桜堤コミセンは小さなコミュニティセンターで、アットホームな雰囲気の特徴的ですが、位置的に孤立している点が大きな制約となっています。周辺の他市の方に参加いただいている点も特徴です。いかがでしょうか。

【D委員】 小さいコミセンであっても、「天体観望会」など、隣接する上水北公園を非常にうまく使っていると思います。道路を挟んで隣には大きな小金井公園もあります。渋谷プラネタリウムの先生がお住まいだったこともあり、地域の人材も含めて活用できていると思います。

【C委員】 桜寿会という老人クラブの会長が以前コミセンの代表でいらっしゃったことから、老人クラブとのつながりが読み取れます。「親子ひろば」の参加者に「よみきかせ」への参加も呼びかけているとのことでしたが、これは「親子ひろば」の担当である桜堤児童館が担う部分が非常に大きいと思いますので、児童館名まで記載できるとよいと思います。位置的に孤立していると話がありましたが、コミセンの前にバス停があるのは強みであり、バスの本数も多いので恵まれていると思います。地図だけでなく、コミセンへの公共交通アクセスについても整理されているとよいと思います。

【副委員長】 コミセンの立地している場所が、西東京市に囲まれ、なかなか難しい中でよくやっていると思います。桜堤1・2丁目は西部コミセンに近い。桜堤の土地柄は詳しく分

かりませんが、その中で様々工夫しています。

【D委員】 かつては上水北公園内に集会所があり、その後に建ったコミセンです。コミセンのある地域には旧中島飛行機の社宅から転身した住宅があり、現状、地図上で小金井公園の本市部分の場所には一時期、都営住宅がありました。また桜堤1・2丁目は桜堤団地と呼ばれる公団住宅が建っていて、公団の集会所がありました。桜堤地域には、小学校が現在の桜野小学校に統合する前は、境北小と桜堤小の2校がありました。ちなみに、バス停はコミセンから近いですが、現在は平日のバスの本数は少なくなっています。

【副委員長】 コミセンができた頃は、都営住宅はありましたか。

【D委員】 コミセンが立った昭和57年頃には、都営住宅はほぼ移転していたと思います。

【委員長】 本委員会としては、地域の状況をうかがいながら、施設のハード面や立地がどのような影響をもたらしているかを考えていければよいと思います。西東京市が近いという状況も踏まえて、運営を工夫されていると思うし、一つの可能性だと捉えてもよいでしょう。将来の公共施設の再配置を考えるならば、地域の状況の変化も踏まえて検討すべきということになるでしょう。時間も過ぎてしまったので、このあたりでまとめとします。

【C委員】 資料4の追加ヒアリングに関して確認します。「⑤施設・設備の管理」において「異常時」という言葉がありますが、これはどのような状況を想定していますか。災害時の非常時とは異なりますか。あるいは、犯罪等も含まれるのでしょうか。

【事務局】 たとえば空調やエレベーターなど設備の不具合、事件や事故（110、119番連絡体制）等も含めた状況を想定しています。

【C委員】 「異常時」というイメージがわからなかったため質問しました。

3 その他

【事務局】 次回の委員会は、8月19日（水）午後2時半からです（会場は西棟811会議室に変更）。総括したコメントは、取りまとめ次第メールでお送りします。

【委員長】 第7回評価委員会はこれで終了とします。ありがとうございました。

以上